けれど、なんとなく面白そ

今回は「まちゼミ× 中小企業診 『城北―X(エックス)』。 連載五回目という節目を迎えた

実行委員になられた小松克弥ざ 業診断士)。 描き続ける鵜頭誠先生(中小企 商店街活動ゼロから北区まちゼミ 断士」という組み合わせにフォー 商店主主導のまちゼミを

野の専門知識や情報、 始まった、商店主が講師となってその分 ※「まちゼミ」とは、愛知県岡崎市で げるのかを取材させていただきま て、これからをどのように作り上 二人がどのように作り上げてき 四回目となる北区まちゼミをお

石田 紀彦(中小企業診断士)

で商店街活 てれにいろい 外回り営業だったので、 そもそも は好きなんで ー条にいなかったですし。 -をいっぱいやっているので、 たまに さいじゃな が足りない時に手伝うぐらい で商店街活動は何もやって 十条銀座ではイベン 十条銀座商店街

松のまちゼミ参加店募集のFAX

、弟と「あの人、サクラじゃね?」

北区まちゼミリーダー KATSUYA KOMATSU

小松 克弥

中小企業診断士 MAKOTO UNOZU

まちゼミと診断士が作り出す、 未来の商店街のかたち



終わるのはもったいないと思い、小松:率直に面白かったです。まかわかりました。まちゼミ開催後がわかりました。まちゼミ開催後来てくれましたので、活動の意義来でくれましたのときに、このままがわかりました。

小松:SOSを通じてみんなで助なした。 それで浅草北部でやっていて、実行委員でサポートできる方法ありませんかという問いが来ました。それで浅草北部でやっていた試みで、事務局にFAXを送いた試みで、事務局にFAXを送いた試みで、事務局にFAXを送いた試みで、事務局にFAXを送いた試みで、事務局にFAXを送いた試みで、事務局にFAXを送いた試みで、事務局にアAXを送いた試みで、事務局にアAXを送れば、『このお店まだ空きがありました。

つなげる診断士横でつながるまちゼミ

すよ。誰も知り合いはいないけれ (笑)」と思って、見に行ったんで から僕がまちゼミでやりたいと から僕がまちゼミでやりたいと かっていました。「やられた! でいたマルシェ(青空市)を かっていました。「やられた! がっていました。「やられた!

> 診断士の中野先生に、まちゼミに詳し 時に十条銀座の支援を担当されていた 座で説明会をやりたかったので、その 時には、ぜひ自分の地元である十条銀 が七人集まってくれました。二回目の 飲み会の話の流れでサポー す。これをきっかけにまちゼミの運営 での飲み会はやりたくなかったみたい の役所の方が会場準備からすべて対応 ところ、まちゼミを主催していた北区 参加店のみんなでの飲み会を提案した い先生として鵜頭先生を紹介いただき に関わりを持つようになります。 してくれました。実は役所も役所発信 こういう提案を待っていたようで トメンバ・

という状況でした。そんな中、声をかる方法がなかったので様子を見ているまったことは知っていたけれど、関わ朝頭:当時の私は北区でまちゼミが始

「話ができるだけでも参考になる。 業界が違っていても参 考になることがあるし、 結局みんなまちゼミってものに対し て一方向を向いているから、 共通の仲間なんですよ。」

> **】またがずが、このである** う立ち位置で関わるようになりま した。

置は意図的ですか。 **司会**:オブザーバーという立ち位

いっていたことと、区の方の熱意 が特に強く感じられたので、あえ で診断士として手をつけないでい いだろうと思っていました。どこ いだろうと思っていました。どこ かでは困る・気になる瞬間が必ず 出てくると思っていて、そのとき に手を出せばいいとも思っていま した。まちゼミニ回目、三回目は いわゆる相談役でした。

我々はまったく何もやっていない 司会:505? SOSは良かった。 れが本当にありがたかった。 ことに関してだけ、細かく答えて よ。そうではなくて、 う。これじゃあ、ヒナと一緒です 生がやってくれる」ってなっちゃ し、苦労もない。そのうえ、もし シを作って「はいどーぞ」だった。 小松:北区は役所が主体でやって くれて情報をどんどんくれる。こ も鵜頭先生もどんどん言ってきて いて、役所が参加店集めて、チラ いたら「どうせ役所や診断士の先 僕が聞いた

け。 は、結局みんなまちゼミってもの に対して一方向を向いているか に対して一方向を向いているか に対して一方向を向いているか に対して一方向を向いているか



と話させてください」と、飲み会ちょっと一緒においでよ」と、飲み会ちもすごくフランクなんで「じゃあちもすごくフランクなんで「じゃあたやっている小松と申します、ちょっをやっている小松と申します、ちょっと「こんにちは。僕、北区でまちゼミど「こんにちは。僕、北区でまちゼミど「こんにちは。僕、北区でまちゼミ

にノウハウを伝えてくれました。彼らから前のめりに、失敗しないようなでいるような雰囲気がありました。没したいるような雰囲気がありました。没いるような雰囲気がありました。他のまちがら前のめりに、失敗しないようにのから前のめりに、失敗しないき、ネットワーと小松さんをつなげていき、ネットワーと小松さんをつなげていき、ネットワーと小松さんをつなげていき、

が違っていても参考になることがある話ができるだけでも参考になる。業界すよ。悩むけど、相談する相手がいない小松:みんな商売やっていて悩むんで

ちょっとずつ違う。足りない、

ŧ

が大事にしているというものが ルまたはお子さんなど、一人一人 いています。お店や自分のスタイ にしているかということを全部聞

えるようにしていて、

そうすると

は、大事にしているものを軸に伝 しくは必要なものを伝える際に

商店主主導へ行政主導から

三年間で手を引くと予定していた

でした。

理想の形で、行政も望んだとおり **鵜頭**:そうです。一番素晴らしい が、ちょうどはまった。 しょうと言ってくれる小松さん 司会:チームでこうやっていきま

たです。行政と僕らってなんだか

小松:鵜頭先生の存在も大きかっ

んだ言っても違う。ぶつかっ

た北区まちゼミですが、行政側は 司会:もともと行政主導で始まっ

そうですね。

ジュエリーこまつ株式会社代表取締役でありお母様の小松栄美子様とともに

つ役割

司会:行政と商店街の間を取り持

援ができる。

鵜頭:私は、診断士という存在は

きに伝えてきました。

そして自立することの良さを前向

がいることによって、行政ものび か。ちょうど間に入ってくれる人 ちゃったら終わるじゃないです

のびとまちゼミを通じた商店街支

特に行政は手離れすること、

診断士の立場で言うようにしまし 人たちが立場的に言えないことを **鵜頭**:そうです。なので、行政の

帰らせたまちゼミ小松さんを商店街に

事にするということは意識してい

にしていることを常にこちらも大

ます。

その上で、私は皆さんが何を大事 のを見つけるようになります。 欠けている、もしくは足りないも

その観点に気づいて埋めにきます

次回以降は皆さんが自発的に

と思います。伝えれば、

皆さんも

ゼミも人が大事なので、人が大事 とが原因です。商店街活動もまち ただくように伝えるのが、結果的 と思うものを見つけて対応してい 今一番足りない、もしくは今必要

月も現場に行っていなくて、

しっ

かりと情報把握していなかったこ

が相当あります。

だいたいは何ヶ

鵜頭:言ったことで失敗した経験

すごい大変なんですよ。

して言わない。我慢するって実は い目を見たとしてもちゃんと我慢

に一番自立の後押しになっている

の自主性をどう促されています 司会:その意味では、店主の方々

鵜頭:色々な立場のメンバーが、

て変えるというのは、まちゼミの で、それを診断士や専門家が言っ 催していただくのが一番いい形 の方々が自分たちのものとして主 対に成果になる。まちゼミは店主

う、言わないで悩んでいる。言わ さずに言ってくれます。それを言 る。だから、足りないところを外

ない方が成長するならこっちが痛

本旨ではないのです。

と思います。ご自分たちでやって

大きくは外さない

になり、

結果的にマンネリになっ

果集計です。私は実行に関わらな まちゼミメンバーからの依頼は成

鵜頭:第四回の小松さんたち北区

を考えて依頼してくださったのだ

い点は変えたくなかったし、そこ

が行政支援の延長を要望した結 のまちゼミで色々な業界団体など 後押しをした背景には、過去に別 良いですよ」という支援ではない けないのは「これをやったほうが

頭先生の役割は相談役から変わっ

のように支援していきますか。 司会:商店街主導の第四回は、

鵜

ともよくあります。

たのでしょうか。

引き続き行政が担当すること

思いもありました。

そうなってほしくなかったという てしまった事例をみてきたので、 る。

私の立場で一番しなければい

の立場でもお店の方に後押しす そして自由にできる良さを診断士 それを実現するために、区の思い ゼミをやりたいと思っています。 **鵜頭**:区は行政の手を離れたまち

> 見だとしても、私が伝えることで と考えています。たとえ行政の意

に応じて変身しなければならない

トランプのジョーカーのように場

行政から指示されたからやったと

いう状況にならないようにするこ

いただいた方が、良くも悪くも絶

周りの人たちもすごい部分を分 色々な手段を使って前向きに越え が入ってきたと思います。それを 三年間、 **鵜頭**:まちゼミが始まってからの かっている。 ていかれたのかなと思いますし、 小松さんには色々な刺激 もともと商店街活動

てこられた。 を得られて、地域の方ともつなが ちゼミを通じていろいろな気づき は何もしていなかったけれど、ま 結果として商店街の中に帰っ

出てコミュニケーションを取るか

ちょっとした変化も察知でき

小松:鵜頭先生はとにかく現場に

でも、 <u>ک</u> (るわけだから、商店街の活動が面 するわけだけど(笑)。 感化される。意外と面倒だったり ばっかりのところに僕もやっぱり やったらいいかって考える連中 バーが集まって自分の街をどう 白いんですよ。みんな熱いメン ちゃって、あとづけでやるかのご ゼロの状況でまちゼミにいっ がこのまちゼミなんです。 ひとつの解としてたどり着いたの いくわけですよ。僕の場合、その 行くだろうって考えながらやって くいくか、どうやったら良い方に ところの地元がどうやったらうま ん地元愛が強いんですよ。自分の 小松:よその商店街に行くと皆さ 商店街をやったわけです。 結局、僕は十条にずっとい 地元が

取材を終えて

その言葉には今まで積み重ねてきた ることが私の喜び」と語られました。 取材後に鵜頭先生は「支援先が自 いつか自分の役割がなくな

第四回

参加者募集中!

記事中でも触れられていますが、2019年

援の形が伝わってきた取材でした。 商店街の1つの形そして診断士の支 さまざまな人が集まって起こす化学 まちゼミという一本の軸をきっかけに 生に後押しされ、 促すという強い信念を持つた鵜頭先 解に惹かれた小松さんは、 まちゼミという商店街活性化の1つの 想いが凝縮されていました。 反応が商店街を進化させる。 して、地元の仲間が協力し、 経験、 そして商店街に対する本当の して北区まちゼミを作っています。 地元の仲間と協力 自主性を





度も北区まちゼミは開催されます。 はもちろん、他地区にはない試みが満載の 北区まちゼミヘ受講者として参加される方も お待ちしています!詳しいスケジュールなど は「北区まちゼミ」で検索ください!

北区まちゼミ

facebook ページ